

四季暖流

第8号

交通アクセス

●北部・中部からの患者さんの場合

◆市外線利用

- ①那覇バスターミナル下車
- ②糸満線に乗車
89番(琉球バス・沖縄バス)那覇西高まわり、航空隊経由
- ③新町入口にて降車

◆市内線利用

- 市内線9番大嶺線の通るバス停より乗車、新町入口にて降車

●南部からの患者さんの場合

- 89番那覇行きのバスに乗車、新町入口にて降車

●市内からの患者さんの場合

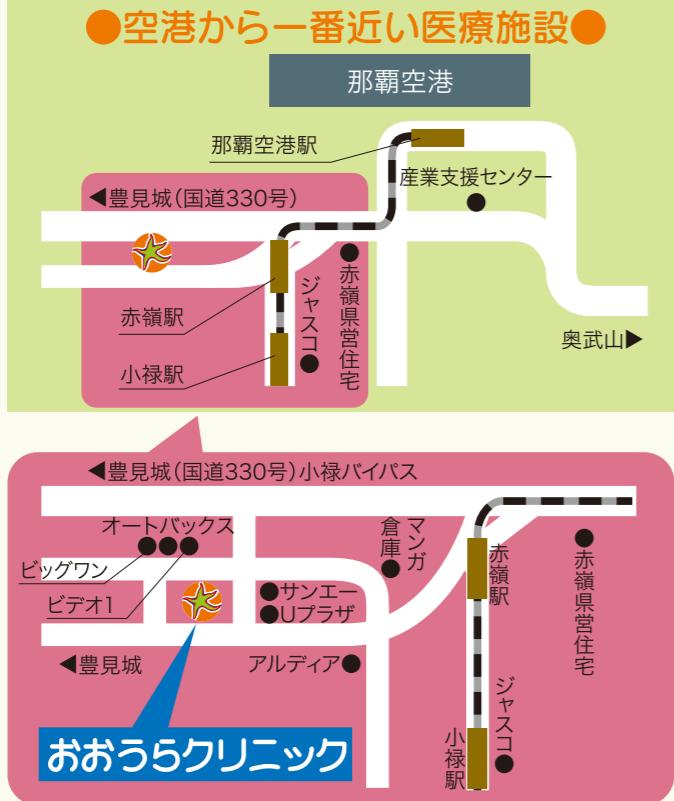
- 市内線9番大嶺線の通るバス停より乗車、新町入口にて降車

●モノレールからの患者さんの場合

- 赤嶺線より徒歩3分

●県外からの患者さんの場合

- モノレール那覇空港駅より乗車、赤嶺駅降車して徒歩3分



四季暖流

第8号(通巻八号)

平成二十二年十二月一日発行(年四回発行)

編集／十全会

発行所／医療法人十全会(沖縄県那覇市高良二一五—二二一 電話〇九八一八五九一九四二)

印刷／新星出版



 医療法人 十全会
おおうらクリニック

ホームページ <http://www.oura-cl.com>

那覇市高良3丁目5-22

TEL.098-859-1941 FAX.098-859-1933

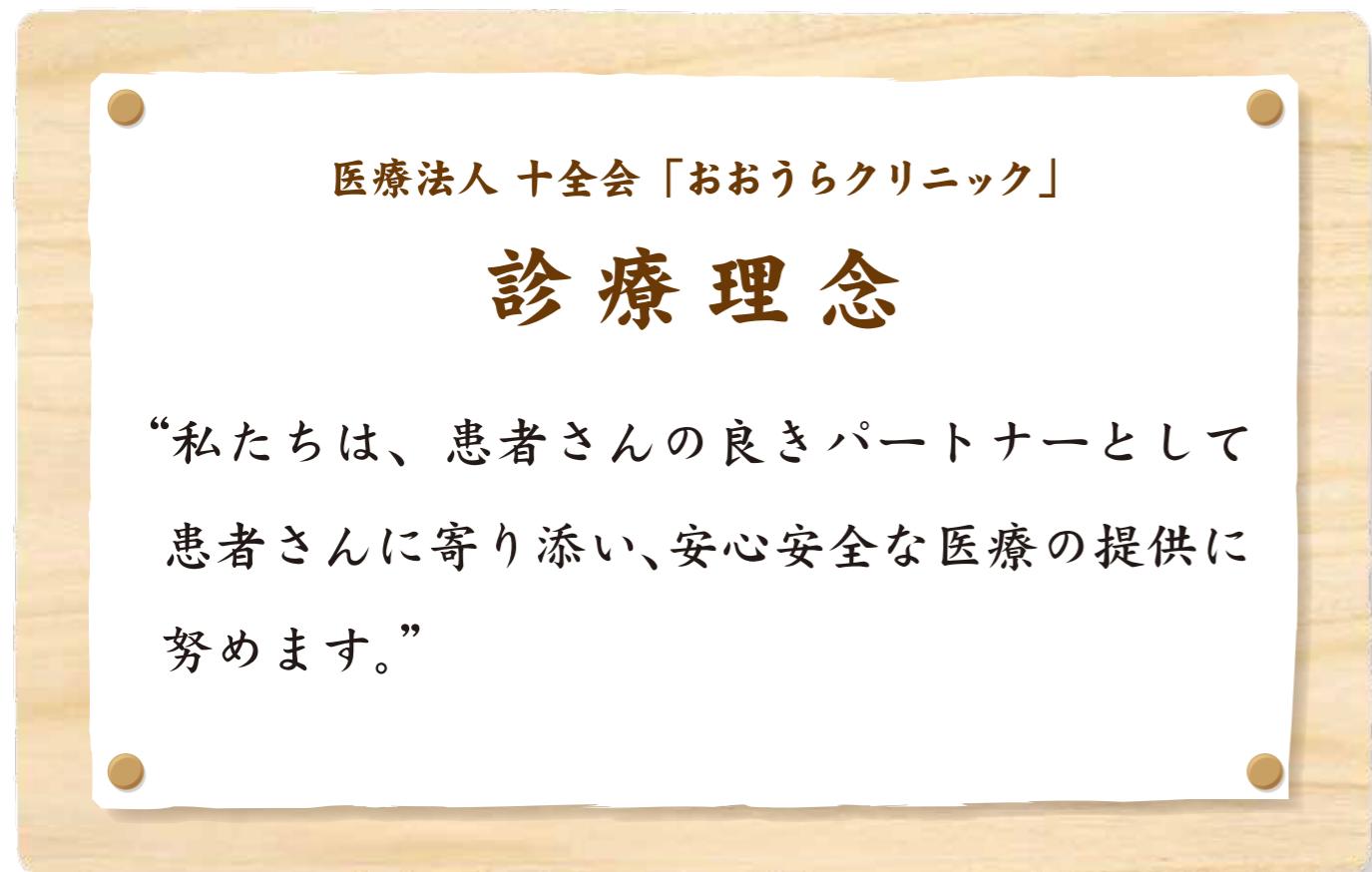
診療時間 月～金曜日 9:00～12:00/14:00～18:00
土曜日 9:00～13:00

休診日 日曜・祝祭日・土曜日午後



医療法人 十全会
おおうらクリニック

ホームページ <http://www.oura-cl.com>



目 次

卷頭 終末医療の狭間にて—三途の川のガードマンー	1
インフルエンザ予防について	2
東日本大震災被災地、宮城県仙台市より透析患者を受け入れて	
一 宮城県仙台市における透析治療の現況	3
統合失調症に合併した線維筋痛症	6
行事報告	8
地域医療研修	9
事務局報告・本誌への原稿募集	12



巻頭

終末医療の狭間にて
—三途の川のガードマンー

大浦 孝

チベットでは葬儀は、鳥葬であった。沖縄県の久高島では、風葬であった。田中角栄曰く「遺骨は海上へ散布してくれ」。作家、吉村昭は病室で管を全て自己抜去し自裁した。

人の死の儀式は、神々しく壯厳で神秘的である。野辺送りは、悲しみと孤独感と絶望感の混り合った複雑な心境となる。私は職業柄、人の死にしばしば立ち合う。いわば三途の川のガードマンである。死は様々な形態を取るし、一人一人個性的な死を迎えることであろう。ここでは医療行為を実践する者として次の三群に分けてその実情を解説する。

一. 重装備の医療行為で起死回生を期待する

「最高の医療で最善を尽して下さい」「はい分りました」病室は一瞬にして戦場となる。通常医療チームは主治医、その他二名と、看護師三名で職務を全うする体制を組む。三交代制で24時間対応する。そして、家族にとっては病室が家庭の延長であり一部となる。ライフラインの確保と医療行為のアクセス確保が即、実行される。

- ① 血管確保(水分及び薬物、栄養補給)
- ② 口、食道胃のルート確保
- ③ 排泄口の確保(大便、小便)
- ④ 呼吸手段の確保
- ⑤ 毎日の体位変換
- ⑥ 清潔環境の整備

都合五、六本の管(チューブ)が体に挿入されることとなる。重装備にして、これをスパゲティ症候群と称する者もいる。個体の生命を救助する壮絶な戦いの始まりでもある。日常生活を逸脱した行為が続く。二週間経つと、家族も冷静となり、リズムのみに入る。しかし病人の意識は戻らず、状態に変わりはない。むしろ重装備の下で苦痛に喘いでいるようで不憫となる。二、三ヶ月もすると絶望感に襲われて、現場から逃げ出したい気持になる。高額となった医療費の請求書も頭の隅に残る。医師も「もはや回復は不能である」と悟っているが断言することは困難である。ついに家族の中でも最も冷静な者が感情を抑えて発言する。

息子さん「人工呼吸器を止めて下さい。家へつれて帰ります」

医 師「途中、車の中で死にますよ。遅くともお家へ着いてから息をひきとりますよ」

息子さん「それでも構いません。管も全て抜いて下さい」

医 師「死亡診断書はどうしますか？ 往診して御自宅で死亡を確認して発行することになりますが…」

父親でもある御主人は終始無言である。かくして双方とも複雑な心境のまま死の宣告は心停止まで延期となる。

二. 必要最小限の医療行為のみ希望する

病室で栄養補給、水分補給の点滴のみで後は鎮痛剤、解熱剤等と対症的に対処し重装備は拒否して息をひきとる。

三. 自宅でろうそくの灯の様に静かに息をひきとる

医療行為は一際必要としない。死への準備期間も必要であるが、生前に死の様式を想像し、医療行為の選択肢も自己決定しておけば双方とも好都合と考えているのだが…。



インフルエンザ予防について

日常でできる予防方法・ワクチン接種で流行期間を乗り切ろう！！
体調を整えて抵抗力をつけ、ウイルスに接触しないことが大切。手洗い・うがいを習慣づけ、体調管理に心がけましょう。

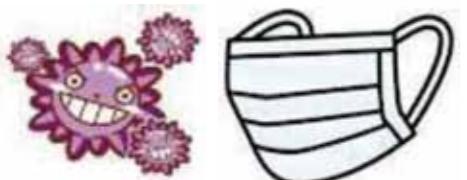


I 栄養と休養を十分取る。



体力をつけ抵抗力を高めることで感染しにくい体づくりを！

II 人混みを避ける。(マスクの着用)



ウイルスを寄せ付けない為に、外出はなるべく控えた方が良いですが、インフルエンザの流行期、外出される際には、マスクをつけましょう。

III 外出後は手洗い・うがい忘れずに！



手洗いの目安は15秒から30秒！！
石けんをよく泡立て、全体をよくこすり、指・指の間・指先・親指のまわり・手首をこすり、流水でよく洗い流しましょう。
うがいは約20秒間行いましょう。

IV 適度な温度と湿度！



ウイルスは乾燥していると、長時間空气中を漂います。
ウイルスの好まない環境づくりをしましょう。

V ワクチン接種を！



ワクチンは接種してから効果を発揮するまでに 約2週間かかります。
インフルエンザの流行前に、ワクチンの接種を受けることが望ましいです。

※当院にて、インフルエンザワクチン接種を実施しております。

東日本大震災被災地、宮城県仙台市より透析患者を受け入れて

— 宮城県仙台市における透析治療の現況 —

看護部 上原 りよ子

が登録しました。当院でも臨時透析の受け入れを可能とし、急な依頼でも引き受けられるよう常時空きベッドを準備しています。

今回、震災による被災の影響で生活に支障がでた宮城県仙台市の維持透析患者1名を当院にて約1ヶ月間の長期受け入れを可能としました。

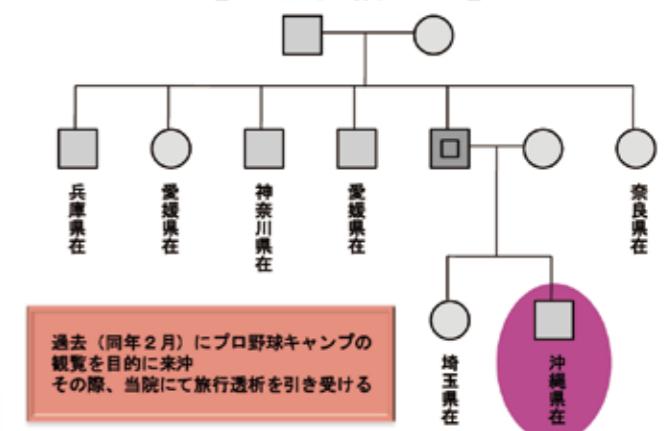
【症例】

症例は、67歳、男性、職業、元営業職、原疾患C G N、透析歴9ヶ月。家族歴には特記事項なし。既往歴には2001年9月、食道癌発症し、化学療法および放射線療法にて加療。現病歴では、2004年11月、両下肢の浮腫、胸水を認め、ドレナージ施行。2005年2月、膜性腎症発症し、ステロイドパルス3クール、シクロスボリン内服、L D L吸着療法施行するも効果みられず、Cr1.0台で外来にて加療継続。2010年8月29日、呼吸困難で入院となり9月2日透析導入。

【家族構成】

図1

【 家族構成 】



同居人は夫婦二人暮らし。家族構成は6人兄弟、子2人で震災とは直接影響のなかった四国、近畿地方に在住が4名。多少の被害はあったものの関東に在住している姉と長女の2名。那覇市に息子が在住していた(図1)。

来沖のきっかけは以前、プロ野球キャンプ観覧を目的に来沖し、その際、那覇市在住の息子の家に宿泊し、当院へ通院を可能としたことから今回も長男の呼びかけにより宿泊先には正面することなく来沖を決断できた。

【透析条件】

当院とかかりつけ施設での透析条件、使用薬剤を示す(表1)。

表1

【透析条件】

	かかりつけ施設	当院
DW (kg)	44.0	44.0
ダイアライザー	VPS-13HA (IV型)	VPS-13HA (IV型)
透析時間 (hr)	3.5	3.5
透析日	火・木・土	火・木・土
透析回数 (回/週)	3	3
Q B/Q D (ml/min)	200 / 500	200 / 500
透析液	AF3E	キンダリーAF2P号
抗凝固剤 初回/持 (U)	ヘパリンNa 500/500	ヘパリンNa 500/500
使用薬剤	ネスブ 10μg/週 デチブリソナート 40mg/週	ネスブ 10μg/週 デチブリソナート 40mg/週
諸検査	血液検査 2回/月 胸部X-P 1回/月	

透析条件、使用薬剤共に同条件を可能とし、長期受け入れということで当院維持透析患者同様の諸検査を行っている。胸部X-Pからは、放射線療法の影響から放射線肺炎の診断を有し、左肺の縮小がみられています(図2)。

図2

【胸部X-P】



なお滞在中の透析治療経過では特に問題はありませんでした。

【被災状況】

症例に震災当時の状況を聞き取ることが出来ました。居住区域においては地震により家財道具の一部が壊れたものの津波の到達はなく家屋損壊は免れたが、電気、ガス、水道などのライフラインは完全に停止し、生活にかなりの支障がでたようです。また、かかりつけ透析施設でも同様の影響があったようです。

【透析治療の受け入れ状況】

ライフライン確保に難渋し、透析治療の受け入れにも影響があったようです。当初、震災翌日に予定していた透析は電気、ガス、水道の確保が出来なかつたため見送られ、翌日の3/13(日)に1日遅れで透析は受けたものの水の供給不足を理由に透析時間を短縮されていました。翌透析日の3/15(火)には完全な水の供給停止を理由にかかりつけ施設での治療が不可能となり近隣の仙台社会保険病院にて2時間透析を受けたとのことでした。3/17(木)ライフラインは完全復旧し、かかりつけ施設にて通常透析が可能になりました。

【仙台社会病院】

仙台社会保険病院の当時の情報を入手したので報告します。病床数428床、同時透析63床、透析患者数180人。透析は毎日2クール行っている施設です。震災当日、地震により建物の壁の一部に穴があいてしまい、入院患者は損壊のない建物へと移動。透析室は築年数が浅く、入院患者の避難場所にもなりました。震災当日、透析をはじめとする院内設備の点検に時間を費やし、自家発電、給水車、治療に必要な物品などを確保したうえで透析コンソールの試運転を行い、震災翌日の12日(土)の朝には透析可能な状態にこぎつけています。ところが、その頃、宮城県内では透析を行うことができない医療機関が続出したため県内唯一の透析稼働施設となり、他医療機関や透析患者からの問い合わせで院内の電話が鳴り続いたという状態でした。「可能な限り多くの患者を引き受ける」と震災翌日の12日(土)午前9時の院内ミーティングで院長が方針を示し、ラジオを通じて仙台社会保険病院が唯一透析稼働可能施設であることを知らせ、透析不能となった県内37施設の患者を受け入れていました。この施設では通常1日あたり数10名から100人程度のところ12日(土)の朝から13日(日)にかけて延べ8クール、一人辺り2時間から2.5時間透析、約600人の透析を実施。透析コンソールのメンテナンスに必要な3時間を除き、夜通じて透析を続けています。これにより3月14日(月)の午前中には予定通り月曜グループの透析を可能としていた。また、この日、仙台赤十字病院が復旧し、役割を分担することができたとのことです。(東洋経済新聞オンライン版より)

【気仙沼市立病院】

一方、津波被害が直撃した気仙沼市では、市内で多くの診療所や調剤薬局が津波で壊滅的な被害を被ったのとは対照的に高台の岩盤の上に建つ気仙沼市立病院は無傷で済んだようです。建物や設備が無傷とはいえ、外部からの電気、ガス、水道、通信が途絶え、約180人の透析患者の診療継続、また、火災が迫り来る中での入院患者の避難準備などの対応に追われていました。問題点として電気が復旧するまでの間、自家発

電装置の燃料確保に苦慮しており、市内にあった石油タンクの油が湾に流出、それが引火して大火災が起き、そのため新たな燃料調達は不可能と判断。たまたま運が良かったのは燃料補給のために来ていたタンクローリーに燃料が残っていたことでした。ここから無断で燃料を抜き取り自家発電措置の燃料にあてています。次の問題は迫り来る火災への対処でしたが幸い火は消し止められました。しかし、消火の後に新たな試練が待ち構えていました。通常3日間稼働に限界がある自家発電装置が5日間休まず稼働していたため異常音を鳴り始めオーバーヒート寸前で、一時自家発電装置を休ませましたが、貯水槽のポンプが止まったために透析に必要な水が供給できず無理を承知で自家発電を稼働させ、直後、外部電力の供給再開で難を逃れていました。(東洋経済新聞オンライン版より)

【まとめ】

本症例においては、沖縄に在住する長男の自宅に宿泊することで長期的な外来通院が可能となった。当院では、常時、旅行透析の受け入れ体制が整っており、かかりつけ施設と同様の透析条件が施行でき、更には長期受け入れを行うことができた。今回、知り得るだけの情報では、大規模透析施設で治療する患者数が激増し、需要を満たすため本来1回当たり4-5時間を要する透析時間がその半分近くの2-3時間に短縮された。1日2回から3交代の透析シフトが通常だが、夜を徹して7シフトから8シフトまで増やし、治療が行われた。

平成23年11月27日(日)

第44回 九州人工透析研究会総会にて発表予定(佐賀)

行 事 報 告

去る、7月30日(土)那覇市波の上ビーチ隣接“コスタビレッジエスパーナ”にて開催したビーチパーティーの模様をお伝えします。



院長のお孫さん。芭菜ちゃん



談笑の一コマ



お肉を焼く赤嶺さん



スペシャルゲストの荒木先生



談笑の一コマ



談笑の一コマ



高良さんと上原技師長



談笑の一コマ



当院に研修にいらした先生からのお便りです

地域医療研修

おおうらクリニックの皆様へ

先日はおおうらクリニックの皆様には大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

貴院での「地域医療研修」を選択させていただいた理由としては、3つあります。石川県の金沢市以外の病院か、または沖縄の病院かのどちらかを選択できたのですが、なかなか沖縄で1ヶ月間生活する機会はありませんし、旅行では2回沖縄に訪れていて好きだったため、せっかくならば全く異なった環境のなかで研修したほうがおもしろそうだと思ったというのがきっかけです。そして、おおうらクリニックのホームページを拝見した際に「旅行透析」という言葉を目にして、どのようにおこなわれているのか、どんな患者さんがいらっしゃるのだろうと気になり調べてみると、リウマチ、SLE、シェーグレン症候群などの膠原病の患者さんが多く通われていると知りました。このような患者さんと眼科で関わることは多いのですが、昨年の内科研修ではあまり出会わなかった分野でしたので、どんな診療をしているのか知っておきたいと思いました。このようなことがきっかけとなり、おおうらクリニックでの研修をお願い致しました。

診療については、気になっていた「旅行透析」に来られている患者さんにも、初日からお会いできました。その患者さんも海に行くとのことでした。リピーターの方もいらっしゃいました。透析をしながらでも沖縄に行けるとなると、旅行の選択肢も楽しみも広がると思いますし、大変喜ばれると思いました。実際にお会いした方々も、透析をして、あとは海で遊び観光をす

る、離島から何度も利用しているなどいろいろな使い方をされていると感じました。

膠原病の患者さんは、なかなか診断がつかずに多数の病院をまわっている人が多いこと、またそれでの治療の経過を患者さんから直接聞いたことが印象に残りました。すべての疾患に共通することですが、話を聞くことの重要性を再確認しました。(今までの通院歴、生活背景、家族歴なども総合的に考えるなど。)



地域性としては、車社会であることや、食生活も欧米化しているからか、生活習慣病、メタボリックシンдроームの患者さんも多いことがわかりました。来る前は沖縄の食材などから健康なイメージがあったので意外でした。

膠原病ではSLEでの脱毛症状が多いことも感じました。沖縄では紫外線も強く、紫外線が増悪因子とな

る患者さんにとっては大変な条件下にあると感じました。

common diseaseに関しては、自分で診察して説明をしましたが、隣の診察室に先生がいらしゃったので、何かあれば確認もできたのでよかったです。透析では、ダイアライザを見せて頂いたり、回診に参加することで、毎回の変化やチェックすべきことなどを学べました。また、穿刺もさせていただき、良い経験となりました。

生活については、7月、8月などのシーズンは観光客も多い時期で、マンスリーマンションなどが混み合っているので、希望のところを確保するには早めに準備したほうがよいと思いました。また震災の影響で東北地方の方々が沖縄に長期滞在していることもあり例年以上に混んでいるということも、こちらに来てから知りました。朝から日差しが強く眩しいので、日焼け



止め、サングラス、日傘、帽子などは必須だと感じました。海も、普通の水着だけではなくて長袖を着たりして入るのが一般的なようでした。観光客の人が日焼けで火傷状態になって病院を受診することが多いということにも驚きました。

週末はレンタカーで沖縄観光をして満喫できました。海沿いの58号線はとてもきれいで走るだけでも気持ちがよかったです。景色のきれいなカフェや、観光地を楽しみました。また沖縄の食べ物も好きだったの

で、ゴーヤチャンプルー、麩チャンプルーなど沖縄の料理を作つたりしました。病院スタッフの方々には度々沖縄の情報を教えていただき、とても助かりましたし、新鮮なこともたくさんありました！離島へ行くときもアドバイスをいただいたらしく、また南部の観光地も案内していただき、医療以外にも沖縄生活を楽しめ、とても良い経験ができました。沖縄での地域医療研修は今年が初めてであり情報もなかったため不安もありましたが、おおうらクリニックで研修させていただいて本当によかったです。ありがとうございました。

金沢大学医学部付属病院 川北 彩乃先生

おおうらクリニックの皆様へ

残暑が続いておりますが、皆様お元気でいらっしゃいますか。

先月は一ヶ月間という短い間でしたが、大変お世話になりましたが、ありがとうございます。お陰様で外来診療から透析に至るまで、これまで経験できなかったことに触れることができ、とても勉強になりました。

また文化の異なる地域で医療や様々な方々と触れ合うことが出来たことは、私の人生においても視野を広げ考えを深めるとても貴重な経験になったと思っています。初めての土地で過ごすことに最初はワクワクと同時に幾分不安もありましたが、クリニックの皆さんの温かい雰囲気やお人柄に触れる中で、お陰様で一ヶ月間全く寂しい思いをせずに過ごすことができました。今では“沖縄ホームシック”にかかっているぐらいです。

このような貴重な機会を与えて下さった院長先生ならびに楠先生、丁寧にご指導下さったスタッフの皆さん、生活の細部に至るまでバックアップして下さった事務の皆さんに心から感謝申し上げます。



まだ暑い日が続きますが、くれぐれもお身体ご自愛ください。またいつかお会い出来る日を楽しみにしております。取り急ぎお礼まで。

金沢大学医学部付属病院 柳田 淳子先生

おおうらクリニックの皆様へ

拝啓 青葉の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。

さて、先日は貴院での実習をさせていただき、非常に勉強になりました。沖縄県におけるリウマチ治療の実際、透析医療を垣間見ることができたと思います。

印象に残ったのは地域格差のお話です。リウマチ専門医が少ないために遠くから受診されている患者さんがいらっしゃること。そのため地域の別の医院へ紹介することとなるが、リウマチ疾患の専門知識が先方にならないため症状の進み具合に沿った適切な薬物投与といった治療が不可能になってしまうこと。原因が未解明だったり、疾患概念が未確立な疾患が多いため、他科で誤った診断がなされ今も苦しんでいる方が多くいる予想されること。地域にリウマチ専門医が不

足していることで生じるこれらの問題を目の当たりにし、巷間でいわれている医療の地域格差を初めて実感することができました。

今回の実習で、リウマチ専門医になるという目標の動機に、沖縄県のリウマチ性疾患医療の一助になるということが加わりました。これからも精進していきたいと思います。まずは国家試験合格がんばります。

リウマチ専門医のキャリアについて示唆に富んだご指摘と丁寧な外来指導をしてくださった大浦先生、透析医療の詳しくわかりやすい説明と丁寧な外来指導、そして私が空咳をしていたことを気にかけてくださった楠先生、透析の仕組み・透析液・病棟業務についてわかりやすく丁寧に説明してくださった技師・看護師・事務の皆さん、大変ありがとうございました。とても充実した実習を経験することができ、感謝しております。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

琉球大学医学部6年生 比嘉 克行



事務局報告

(平成22・23年度の抜粋)

■平成23年6月

- 透析室の透析者用テレビを全台地デジ化へ。
- 赤十字病院と地域連携強化。泌尿器科部長 外間 実裕先生を訪問。
- 第56回 日本透析医学会学術集会にて当院から5例の症例発表。

■平成23年7月

- 金沢大学医学部付属病院から、研修医川北彩乃先生を1か月間の受入。
- 職員慰労会バーベキュー開催。
(スナップ写真添付)
- 第55回 日本国リウマチ学会総会・学術集会にて当院から2例の症例発表。
- 大浜第一病院と地域連携強化。副院長 大城康一先生、透析センター長上地正人先生を訪問。

■平成23年8月

- 金沢大学医学部付属病院から、研修医柳田淳子先生を1か月間の受入。
- 台風時停電対策として、非常用電源工事を施工しました。

■平成23年9月

- 第3回 日本線維筋痛症学会にて当院から1例の症例発表。
- 琉球大学医学部付属病院から、実習生新井正則さんを受入。
- 第32回 日本アフェレンシス学会にて当院から1例発表。

■平成23年10月

- 浦添総合病院と地域医療連携協約。

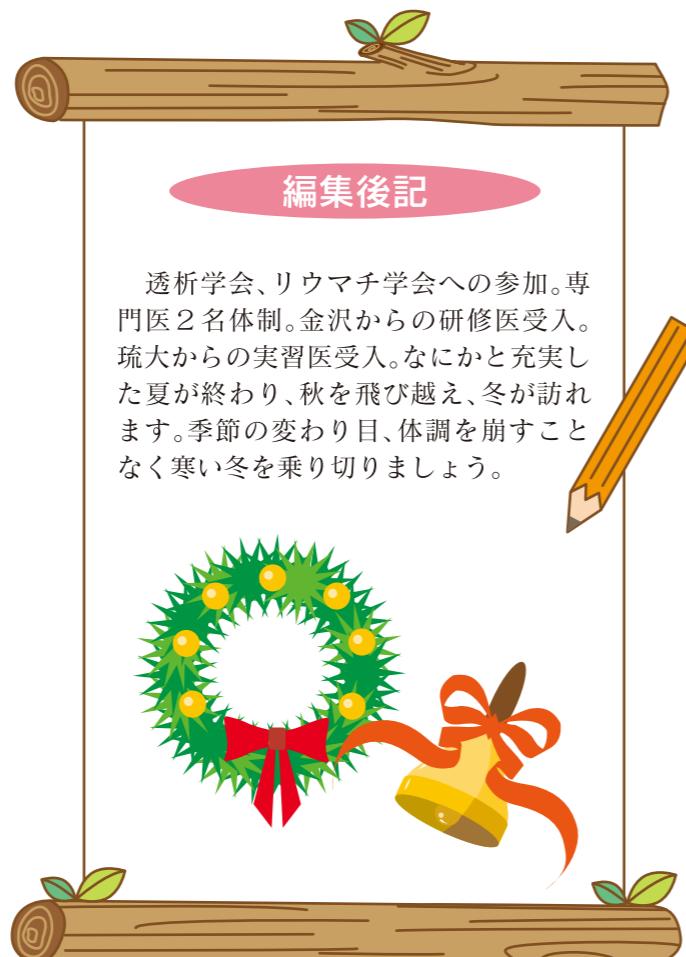
本誌への
原稿募集

この度編集委員会では、本誌を読んで頂いた院内外の皆様からの原稿を募集することに致しました。

- | | |
|---------------------|-----------------|
| ① 表紙のカラー写真 | ② オピニオン |
| ③ 医療情報(人物紹介、イベント案内) | ⑤ 新しい医療技術 |
| ④ 症例報告 | ⑥ 旅行記(学会・研修会報告) |
| ⑦ 論文記 | ⑧ エッセイ |
| ⑨ 思い出の記 | |
| ⑩ 医学生の実習報告 等 | |

尚、お寄せいただいた原稿の採否については、編集委員会に一任させて頂きますようお願い申し上げます。

採択の原稿には簿謝呈上致します。



編集後記

透析学会、リウマチ学会への参加。専門医2名体制。金沢からの研修医受入。琉大からの実習医受入。なにかと充実した夏が終わり、秋を飛び越え、冬が訪れます。季節の変わり目、体調を崩すことなく寒い冬を乗り切りましょう。



外来担当表

	月	火	水	木	金	土	
午前	院長 大浦 Dr.平田(消化器)	院長 大浦	院長 大浦	院長 大浦	院長 大浦	院長 大浦 Dr.當山(循環器)	
		Dr.楠	Dr.楠	Dr.楠	Dr.楠		
診療受付時間 平日 午前(8:30~11:30) 午後(14:00~17:30) 土曜 午前(8:30~12:30)							
毎週火曜日 午前 経鼻内視鏡・エコー検査をしております。(予約制) 毎月第2土曜日 午前 循環器エコー検査をしております。(予約制)							

診療科目

一般内科、リウマチ、膠原病、人工透析、線維筋痛症専門外来

診療協力病院

琉球大学医学部付属病院
沖縄県立南部医療センター・子ども医療センター
沖縄赤十字病院
大浜第一病院
浦添総合病院
金沢大学医学部付属病院 リウマチ・膠原病内科